



東大成小だより

さいたま市立東大成小学校

令和5年 1月6日

ホームページ:<http://higashionari-e.saitama-city.ed.jp>

Te1 663-3210

Fax 663-9883

1年の計は元旦にあり ～意欲的に学び続ける子を育てるために～

校長 岡田 健彦

希望に満ちた令和5年がスタートしました。旧年中は、本校の教育活動に御理解、御協力をいただき、感謝申し上げます。本年もどうぞよろしくお願いいたします。

さて、校庭から青空を見上げてみると、かつて正月に旧友と休耕田で凧揚げをしたことを思い出します。当時のことを振り返ってみますと、家ではよく両親がストーブの上に置いたやかんをどけて網を置き、餅を焼いていました。そして、こたつの上にあるみかんを食べながら届いた年賀状を分けて団らんしたものです。来客があるとあいさつをして、お年玉をいただきうれしかったことを思い出します。それから50年近くたった今では、SNSですぐに旧知の仲間とも連絡がとれる便利な世の中になりましたが、人とのかかわりという点では、昔の方がどこか心温まるコミュニケーションがあったような気がします。

年始のあいさつの習慣は、古くからありました。奈良時代には、「年始回り」という行事があり、平安時代になると、貴族や公家にもその習慣が広まったようです。遠方の人には、「年始回り」の代わりに文書による年始あいさつが行われたという記録があります。明治時代になって郵便制度ができ、次第に現在のような年賀状となっていきました。ですから、「あけましておめでとうございます」は、新しい年を迎えて、最初にするあいさつで、とても大切にすべき一言であることがわかります。また、この年始のあいさつに続き、「新しい年を無事に迎えられたから、今年は〇〇を頑張るぞ」という、目標を言い合うことが慣わしとなりました。「1年の計は元旦にあり」という言葉があります。「元旦」とは、元日の朝という意味ですが、元日には、1年間の目標がきちんとつくられていることが大事になるのです。ぜひ、御家族とともに新年の目標を披露し合っていただくとよいと思います。

私は、東大成小の子どもたちが「意欲的に学び続ける子」に育んでいけるようにすることを目標に掲げました。「為せば成る 為さねば成らぬ何事も 成らぬは人の為さぬなりけり」は、出羽国米沢藩上杉鷹山（隠居後の改名前は治憲）の言葉です。藩主となった治憲は、農村の洪水被害や農民が疲弊する状況による深刻な財政状況の再建のために、生活費を切り詰め、土を耕し、帰農を奨励し、産業を振興させました。自らも質素儉約に努め、学問所を藩校「興讓館」として再興させ、藩士、農民を問わずに学問を学ばせました。その努力の甲斐あり、次第に藩は立ち直りました。これを本校の教育に置き換えるならば、校長が教育環境を整備し、教職員の指導力を向上させ、授業改善することで子どもたちが目標に向かってやる気を発揮し、学力を改善していくこととなります。年末には、校舎内の各フロアに、「東大成小SM（スタディ&ミーティング）コーナー（仮称）」という授業中や休み時間に子どもたちや保護者、地域のボランティアや講師の方々が自由に使えるスペースをPTAと連携しながら設置いたしました。早速、子どもたちは、そのスペースを使っています。今後の活用の広がりも期待しているところです。子どもたちを取り巻く大人たちが協働し、「信念をもって、一生懸命に努力を続けていけばやがて事が成る」という意識を共にもてるようにしてまいります。一人もとりこぼすことなく、粘り強く指導を行い、強い覚悟をもって授業の質を高め、本校の子どもたちの学びの向上を図ってまいります。



保護者の皆様、地域の皆様には、今年も昨年同様、本校に対しまして温かい御支援、御協力を賜りますようお願いいたします。